

NPO 法人住まいのホームドクター／設計者の会
460-0017 名古屋市中区松原 1-17-6 朝日軒ビル3階

HD ニュース

No. 49
2017. 6. 15

今後の予定／於：事務所会議室

6月15日(木)18:30～ 木造技術研究会

6月20日(火)18:00～ 相談委員会

6月20日(火)19:00～ 研修会

7月6日(木)18:00～ 三役会

事務所は移転しました。新住所：左記参照

電話：052-684-4162 FAX：052-684-4164

「新築臭??？」

副理事長 森 登

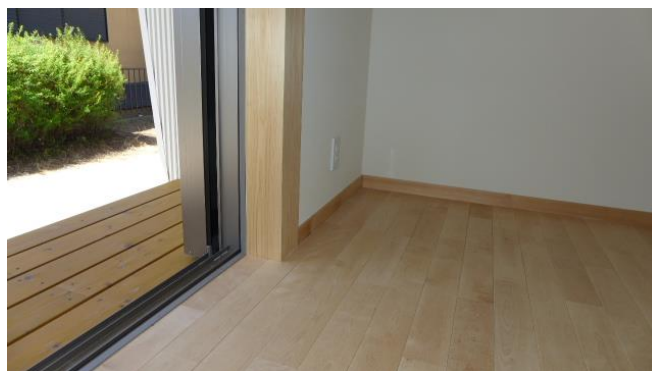
先日、当方の設計・監理による住宅が竣工間近になったので、施主・工務店の了解を得た上で、次の建築主になる予定のご夫婦に、「住まいづくり」を見学してもらいました。建築主と御夫婦の世代がほぼ同じでしたので、好都合でした。設計は、間取りのエスキースを終えた段階で、ほぼ住まいづくりの方向性が定まった上での見学となりました。

住宅のカタチ、インテリア、住設機器、グレード、設計・監理のスタンスなど等の説明・見学を一通り終え、リビングにて御夫婦の家づくりに話が移ったころ、ご婦人から「住宅のこの臭いには馴染めない、恐らく娘も無理。自動車・便所の芳香剤も日常的に受け入れられないのです」と。工事の予算都合で、壁・天井をビニルクロス貼りにした為、ビニールと糊の臭いが合わないようでした。「えっ？過敏症・・・ですか・・・？」一瞬たじろぎながら話を聞くと、病気ではないが馴染めない、特に新築のこの臭いはNG、とのことでした。

過敏症は発症時期が不明瞭で、元々個人差が有り、化学物質の体内蓄積がオーバーフローすることで、取り返しのつかない病気になる、と理解しています。今は馴染めない程度であったとしても、竣工後の発症の恐れ・可能性を考えると、設計監理者としては対応を誤るわけにはいかない・・・。F☆☆☆☆の採用と24時間換気の効果でよほど改善してはいるものの、それだけでは安心できません。

仕上げ完了から引渡までの約1か月間、充分な換気作業を提案し、空気清浄機の設置を必須としました。同時にシックハウス過敏症による建築裁判訴訟の案件を思い出しました。住まいづくりの全てが無駄になる、建築主・工務店とも最悪のパターンとなってしまいます、これを避けなければならない。

現在のすまいの様子を尋ねると、新築物件だった賃貸アパートにお住まいですが、竣工後入居者が決まら



ず半年間は空室だったとのこと。ということはその間に化学物質の発散が最も活発だった訳で、見学者が来るたびにサッシが開けられて、ご夫婦家族の入居までに十分な換気が出来てしまっていた、ということになります。その後特にシックハウス特有の症状もなく、「ただ臭いに関しては過敏になった」という事でした。当方としては、やはり用心するに越したことはありませんので、風の通りを良くする為に間取りを再調整し、熱の逃がし方を工夫することになりそうです。

更に素材については予算の範囲内で、天然素材の壁紙や無臭のでんぷん糊を採用することになりそうです。或いは10年ほど前に、ホタテガイの貝殻ともみ殻を混ぜた素材を採用しましたが、下地の処理にずいぶん苦勞させられた記憶が有り、単価も高かった。珪藻土はそれ自体に接着性能が無いため、合成樹脂系の溶剤を混入せざるを得ない。かといって土壁+本漆喰を採用するほど予算も無い・・・。なかなか悩みどころです。木材の臭いは気にならないということなので、安心しましたが、竣工時の接着剤の臭いは避けられないし、造作に接着剤は必需品です。接着剤はF☆☆☆☆ですが、無臭タイプのもは・・・、聞いたことがありません。

結果、工事途中と仕上げ段階で、充分な換気をすることで対応するしかなさそうです。

どなたか合理的な手法・情報をお持ちでしたら、教えていただけないでしょうか。

ガードマンの物々しい警戒の中の浜岡原発に初めて行きました。生年月日を示す免許証の提示など入館の手続きは結構うるさいのですが、出入り口の車止めは、警戒のわりに結構ちやちなもので、ダンプカーが強引に突破しようとしたら、簡単に破られる程度のものでした。

面倒な手続きが終わってから、最初に東北地震以後、中電として、どんなに一生懸命事故対策を行っているかのPRビデオを見せられ、その後展望台に連れて行かれ、上の方から浜岡原発の1号機から5号機の全容の説明がありました。それから、展示室で原子力発電の模型と、かの有名な「高さ22m津波対策防波堤」の実物模型を見ました。その後、撮影禁止の為、携帯・カメラをロッカーにおいてから、22m防波堤の見学に出かけました。防波堤は、延長1.6キロメートルと聞いていたのですが、マイクロバスで防波堤の取っ付き部分1ヶ所だけに降りての見学でした。カメラ類を取り上げられていたので、もう少し何か見せてくれると思っていたので、残念でした。



その後、撮影禁止の為、携帯・カメラをロッカーにおいてから、22m防波堤の見学に出かけました。防波堤は、延長1.6キロメートルと聞いていたのですが、マイクロバスで防波堤の取っ付き部分1ヶ所だけに降りての見学でした。カメラ類を取り上げられていたので、もう少し何か見せてくれると思っていたので、残念でした。

展示館に戻るマイクロバスの中で、地震対策のため、常時4400人余りの人たちが毎日作業しており、年間4000億円も工事費がかかっていると自慢げに説明をされていましたが、私たちが払っている電気代の中からこんなに使っていると何か悔しい思いでした。中電管内でどの程度電気を購入している世帯があるのか分かりませんが、仮に1000万世帯だとしても、地震対策だけで1世帯当たり、年間4万円電気代を払っていることになります。原発が稼働するようになると、毎年2000億円の輸入燃料の費用が減るそうで、早く動かしたいとの口ぶりでした。しかし、1号機、2号機の廃炉費用が今後どれだけ必要かについては、説明がなくだんまりで、今となっては、国民の常識となった「原発による電気」は高くなる、「子孫に負の遺産を残す」「放射性廃棄物処理施設が無い」という意識とは全くかい離した説明でした。

3連動地震の大津波だけでなく、北朝鮮との緊張状態が続いている国際情勢を考えると、北朝鮮から、原発を狙った通常のみ사일が飛んで来たら、原爆を投下されたと同じ状態になります。

北朝鮮に近い福井県、新潟県などの日本海側に多く原発が立地していることを考えると、広範囲に住めない国土になることをこの国の保守的政治家はどうか考えているのか、改めて心配した浜岡原発の見学でした。

写真: 中部電力 HP より



防波壁

改良盛土

■三役会 5/4 18:00~19:30

会員状況・収支報告、事業活動、HPの充実、等

■マンション・ビル大規模修繕研究会 5/16 18:00~19:00

「これで完璧! マンション大規模修繕」読み合せ
「インスペクターについて」講師: 櫻井裕己

■研修会 5/16 19:00~20:00

「構造よもやま話」講師: 浅井洋樹

■木造技術研究会 5/18 18:30~20:00

「世界で一番やさしい木造3階建て」読み合せ